

①

1. カルデラ
2. 経済特区
3. フィヨルド
4. 二期作
5. 琵琶湖、余呉湖
6. 人工的に孵化、育成させた稚魚や稚貝を放流し、成長した魚介類を漁獲する方法である。(40字)
7. 商業地などの都市部の郊外。(13字)
8. 東部は水蒸気を含んだ南東貿易風が、マダガスカル南北に連なる山脈にぶつかり、年中降水をもたらすが、西部は山脈を吹き降ろす乾いた風の影響を受けて、降水量が少なく、東部に比べ乾燥している。

(別解)

ハリケーンの影響について述べたり、ケッペンの気候区を使って述べたりすることも可能。

9. とともにラテン文化圏に属し主要宗教はカトリックであるが、旧宗主国が異なるために、公用語はブラジルがポルトガル語、アルゼンチンがスペイン語である。また、ブラジルには白人、黒人、先住民のインディオなど多様な人種、民族が居住し、混血や文化融合も進んでいるのに対し、アルゼンチンは国民の大部分が白人で、南欧文化の色彩が強い。

(採点基準)

この分量を記述するというより、おおまかにかけていれば大丈夫。採点は甘め。

②

- (1) サロマ湖
- (2) 野付半島 (野村半島)
- (3) 十勝平野
- (4) 玄界灘
- (5) 国東半島
- (6) 大村湾

③

(1) この地域は広大な台地が広がり、開けているために風が強く、人工林を植えることで、**稲などの作物を風から守るため**。
タウンシップの名残について書いても OK

(2) **大都市圏**は、人口の流入が多く、社会増加の割合が大きいことにより、人口が増加している。また、**大都市圏の郊外**も働き盛りの世代が流入し、ベッドタウンとしての需要が高く、自然増加の割合が大きいため人口が増加している。一方、大都市圏から離れた、地方の県では若い世代の流出が著しく、**過疎化、高齢化が進み**、人口が減少している。

(採点基準)

大都市圏郊外について触れていればあるていど点数は入る。

(3) ①綾里は高緯度で、気温が他の2地点よりも低く、**暖房器具の使用量が多くなり**、二酸化炭素の濃度が高くなっているが、綾里以外の2地点は、低緯度で、比較的暖かいために、その類いの**使用量が少なく、二酸化炭素の濃度が低くなっている**。

落葉広葉樹林が広がっていることや、二酸化炭素の吸収の差について書いても OK

(3) ②南鳥島は、周辺に二酸化炭素を排出する国や地域が存在しておらず、排出の**影響を受けにくい**が、与那国島は周辺に台湾や中国といった、二酸化炭素を排出する国や地域が存在しており、**それらの影響を受けやすく**、二酸化炭素濃度の値が南鳥島よりも高くなっている。

(採点基準)

あくまで、この解答は個人的な見解なので、より興味深い解答があれば点数が入るかもしれない。

(4) 大阪府 B 京都府 A

京都府では近年外国人観光客が増えて、安価で泊まることのできる民泊や簡易宿泊所の需要が特に高まっており、他府県よりも、**それらの割合、総数の増加率が著しい**から、京都府は A と判断できる。

大阪府では、仕事で来て、その場近くで宿泊する人が多く、駅からのアクセスが良くて安価な**ビジネスホテルの需要が高い**。ビジネスホテルの割合が他と比べて高いから、大阪府は B と判断できる。

解説、講評

①の1～6は中学知識で解けるだろう。

7は、スラム街の形成背景について理解していればわかるだろう。

スラム街は、田舎から職をもとめて都心にやってきて、貧乏ゆえに、郊外の荒れた場所に住まざるを得ない人々によって形成されていく。スラム街は非常に治安が悪く、犯罪が日常茶飯事である。ベネズエラ、メキシコなどが有名であるが、ほかにも多くの発展途上国で見られる。

8は、マダガスカル気候についてである。ケッペンの気候区分などを参考にして、特徴などは瞬時に読み取れるだろう。マダガスカルは東西で非常に面白い気候となっている。ケッペンの気候区でいうなら、東部は熱帯雨林気候で、年中多くの降水がもたらされる。西部は、ステップ気候、砂漠気候など、東部に比べれば乾燥していることがわかるだろう。この差は山脈によって生まれる。またマダガスカルは、バオバブの木でも有名で、主に北部の熱帯地方でよくみられる。

9この問題は大阪大学の過去問で、かなり難しいだろう。解けた方はお見事。ブラジルとアルゼンチンの相違点に気が付くと少しは書けるかもしれない。ブラジルは元々ポルトガル領、アルゼンチンは元々スペイン領であったことから、それぞれ話す言語も異なる。また、ブラジルは広大なセルバが広がり、今なお、熱帯雨林のなかで生活している民族もいる。さらに、アフリカから黒人奴隷として働く人もいたことから、黒人も多い。その混血など、多種多様な民族で構成されている。日系人も一定数暮らしていたりもする。ちなみに滋賀県は日系ブラジル人の割合が、ほかの県と比べて多い方だったりもする。

②の4は玄界灘とよばれる海域で、福岡ソフトバンクホークスファンであればわかったかも？2の野付半島は砂州で有名である。航空写真で見てもらうとわかるとおり、きれいなかたちをしている。

③の(1)はこれまた北海道の問題で、根釧台地にある、中標津町の航空写真について説明すればよい。ここはマス目状に人工林がうえられていて、これらは防風林としての役割をもっている。

(2)は人口増加に関する問題で、近年需要が増えているベッドタウンについて書いてあると及第点。難易度はそこまで難しいことはないはず、、、。社会増加とは、仕事の都合などで移り住んできた人達から、町から出て行った人たちの数を引いた増減のことを言う。おもに先進国や、工業が発展している発展途上国で大きな値となる。日本では、東京をはじめとした大都市圏で大きくなっている。自然増加とは出生率から死亡率を引いた増減である。現在の発展途上国で大きな値となっており、日本はかなり低い値であるが、かろうじてベッドタウンではまだましな値となっている。地方では過疎化が進んでいるが、特に秋田や四国などの地域で顕著である。中には限界集落と呼ばれる、高齢者率50%を超える集落も存在し、滋賀のなかにも一部地域で見られている。

(3)(4)についてはどちらも思考力が必要で高難易度の問題だろう。

(3)は地図を見ていればある程度予測できるようにはなっている。

(4)は、間違える人が多数いるだろう。京都府をCにしたひとがおおいのでは？なんとなく京都は旅館がありそうと思う人もいるかもしれないが、近年は民泊が増えて、割合は減ってきている。兵庫がCな理由は簡単だ。有馬温泉、城崎温泉があり、その周辺には老舗の旅館が多く立ち並ぶ。新しくできていないことも考慮すると、Cの兵庫から推測することも可能だ。大阪が案外少ないと思う人もいるかもしれないが、それは単に面積が狭いからという理由に尽きる。そら、面積小さいんだから、おのずとすくなくなるのだ。時代のニーズに沿った施設がこれからも増えていくだろう。

以上、考察でございました！！